



後ろ向きで前向きなスポーツ

会員 竹内 沙織 (66期)

後ろ向きで前向きなスポーツ。

という思い当たる方はいらっしゃるだろうか。水の上を後ろ向きに進む、団体競技。

ボートである。ボートといっても、競艇ではなく、レガッタとも言われる競技ボートの方である。

漕手は後ろ向きで漕いでいくため、前が見えないので、コックスとよばれる船頭役が1人前向きで乗り、舵取りや声かけをするという仕組みになっている。

ボートは、原則2000メートルの距離を、全力で漕いで進む競技である。陸上で2000メートルを全力疾走するのもかなり疲れると思うが、水上の場合は水の抵抗も加わるので、さらに大変である。

そのわりに、ボートはとても速い。8人乗りの競技では、2000メートルを5、6分で走り抜ける。

私は大学時代、体育会ボート部にマネージャーとして所属していた。プレイヤーは埼玉県戸田市で合宿所生活をしながら大学に通う。マネージャーは自宅から週2回は戸田へ通い、練習に付いてビデオ撮りをしたり、ご飯作りを行ったりする。

周囲の方からは、「なぜボート部に入ったの?」とよく聞かれるが、あまりはっきりした理由はない。大学1年生の時に勧誘されて新入生歓迎バーベキューにいき、戸田市でボートに乗せてもらったがとても楽しかったのと、部内の先輩後輩の雰囲気がとてもよかったので、勢いだけで入った感じである。

当時私は実家の千葉県から2時間かけて戸田まで通っていたので、いま考えると恐ろしい移動時間だが、当時は普通に通っていた。

プレイヤーはほとんどが大学にボートで推薦入学してきており、日本一目指して日々練習していた。大会は夏場から秋にかけて毎月のように開催され、マネージャーは大会準備などを行う。プレイヤーもマネージャーも体力勝負で大変だが、楽しい。

現役を引退した後も、同期達とちよくちよ

く定期的にレースを見に行っていた。中でも盛り上がるのは、全日本大学選手権大会(インカレ)である。これは大学の日本一を決めるという、野球という甲子園のような大会である。皆本気で日本一を狙ってきているので、色々なドラマが見られる。特に見どころなのは1500メートルに差し掛かる辺りである。序盤はとても良いタイムで来ていたが、この辺りで皆の漕ぐタイミングが合わなくなってしまい、一気に順位を下げてしまうチーム。逆に、序盤は出遅れていたのに、1500メートル付近で一気に加速して、1位を取るチームなどなど。最後まで1位・2位を争って、抜きつ抜かれつしながら判定にもつれ込むレースも多い。

近くで見ると、コックスの声掛けやプレイヤーの雄叫びが聞こえたりして、とても臨場感がある。一番のおすすめは、自転車で、選手がボートを漕いでいる横の道を伴走することである。横を見ながらかなりの速さで自転車を漕ぐことになるけれど(前方不注意で自転車事故になりそうになったことは何度もある)、一緒に漕いだような気になれる。

戸田まで足を運ぶのは大変だけれど、近くまで来られたときには、ちょっとボートコースを覗いてみていただきたい。後ろ向きで進んでいるけれど、前向きな掛け声が聞こえてくるはずである。コース周辺にあるたくさんの合宿所と涼しげな水面が見られて、癒されるかもしれませんよ。

